

プロジェクトチームメンバーから提出された主な先行事例 (企業や地方公共団体の取組)

(1) 土日祝日などの特定の日に国民が一斉に休むのではなく、企業や個人単位で 休日を柔軟に設定できる環境づくり

- 主に製造業の現場で行われている、祝休日を平日に振りかえる事例。
- 従業員全員によるアンケートにより、翌年度の会社休業日を決めている事例。
- 国外を含む配偶者の転勤への同行、資格取得・留学、妊活、その他企業が必要と認めた場合に取得できる「キャリアサポート休職制度」の創設。
- 祝日がない6月に支社独自の休暇を設定することで、有給休暇、連続休暇を取得しやすくしている事例。
- 「ナイスデー」(独身者は誕生日、既婚者は結婚記念日の前後2週間以内)、「マイホリデー」(自由に設定)を各1日付与している事例。
- クラウド型業務基幹システムを自社開発しマルチタスク化を推進、業務効率化により、「週休3日制度」と営業利益向上を達成した事例。

(2) 欧米と比べて低い水準にある有給休暇の取得促進

- 自社が開催する一般公開講座に参加する時間を積み立て、一定日数分たまると最大1か月の有給休暇が取得でき、さらに取得する従業員に報奨金を出している事例。
- いわゆる「チャレンジ休暇」を付与し、1か月超の休暇を可能としている事例。研修費の会社負担や、成果の社内周知などにより取得を促進。
- 全ての従業員が年1回連続7日以上連続で有給休暇を取得する「脳活休暇制度」を導入し、長期休暇取得の文化を根付かせた事例。

(3) 子どもと家族と一緒に休める環境や仕組みづくり

- 「県民の日」や、連休の合間の日などを「体験的学習活動等休業日」とすることで、当日の教職員の有給休暇取得も推進する事例。
- 親子で校外学習活動を行うために学校を休んでも、欠席扱いとしない「ラーケーション※の日」を創設する事例。

※「ラーニング (learning) (学習) と「バケーション (vacation) (休暇) を組み合わせた造語